

<p>事業の名称</p> <p style="text-align: center;">障がい子育てハンドブック作成事業</p>
<p>事業の分野</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>保健，医療又は福祉の増進 <input type="checkbox"/>社会教育の推進 <input type="checkbox"/>まちづくりの推進</p> <p><input type="checkbox"/>観光の振興 <input type="checkbox"/>農山漁村又は中山間地域の振興 <input type="checkbox"/>学術，文化，芸術又はスポーツの振興</p> <p><input type="checkbox"/>環境の保全 <input type="checkbox"/>災害救援 <input type="checkbox"/>地域安全 <input type="checkbox"/>人権の擁護又は平和の推進 <input type="checkbox"/>国際協力</p> <p><input type="checkbox"/>男女共同参画社会の形成の促進 <input type="checkbox"/>子どもの健全育成 <input type="checkbox"/>情報化社会の発展</p> <p><input type="checkbox"/>科学技術及び学術の推進 <input type="checkbox"/>経済活動の活性化 <input type="checkbox"/>職業能力の開発及び雇用機会の創出</p> <p><input type="checkbox"/>消費者保護 <input type="checkbox"/>団体の運営又は活動に関する連絡，助言又は援助</p>
<p>事業概要（150字以内）</p> <p>障がい児の保護者が子育てする上で生じる不安・負担感を軽減するために、障がい児の子育てに必要な様々な情報を集め、わかりやすい形でまとめたものを作成し販売することとした。初年度である25年度に冊子「ひとりじゃないよ」が完成したため、次年度である26年度は、販売に力を入れると同時にハンドブック作成によって作られたネットワークを活用しての交流活動も展開し、更に年度の終盤には第2号の作成にも着手する。</p>
<p>社会的背景と解決しなければならない課題</p> <p>近年、発達障がいと診断される子どもの数が非常に増加しており、診断がつく年齢も幼児から中・高校生や成人までと幅広くなっている。倉敷市内でも、医療機関等で障がいの告知を受けた保護者の多くが、突然のことに混乱した状態で、相談窓口につながるケースが増加している。しかし一方で、窓口に来ると自体に抵抗を感じ、どこにも相談できずにいる保護者も多い。障がい児の健全な育成のためには、早期に適切な形で専門機関が関わることや、保護者が子どもの障がいを受け入れ、正しい知識を身につけることなどが重要である。保護者が正しい知識や情報を得られずにいると、子どもが日常生活や学校などの場で不応を起す可能性が高くなる。そのため、窓口来所への心理的ハードルを下げることや、必要な情報を素早く、幅広く保護者に提供する工夫が求められている。</p>
<p>受益者の範囲 *提案する事業の対象範囲を具体的に記入してください。</p> <p style="text-align: center;">倉敷市内在住の障がい児の保護者及びその関係者</p>
<p>事業実施後の到達点</p> <p>短期的には作成した冊子が完売すること自体が、保護者への一定の情報提供ができたものとして、事業の成功とみなすことができると考える。また、販売・宣伝のために派生的に行う交流活動における参加者の満足度（参加者アンケートで調査）や講演会等の集客数、講演依頼やマスコミからの取材の数等も、一つの目安となる。</p> <p>長期的には、この事業が独立して継続可能なものとなること、この事業を契機として障がい児の保護者支援の必要性が理解され、冊子作成に留まらず支援活動そのものの必要性が認知されることこそ成功と考える。</p>

事業の詳細（事業2年目の展望）

- ① 1年目に作成したハンドブックを増刷し、更に多くの人の手に渡るよう販売を促進する。具体的には福祉・教育系イベントに出向いての手売りの機会を増やす、読後アンケートの回収をする、振込注文者へのアフターケア（保護者支援イベントへの勧誘）をする等、丁寧な営業・販売活動を行う。
- ② ハンドブックの周知と保護者支援の必要性の啓発のために、外部講師を招いての講演会を行う（年2回）。具体的には鳥取大学の井上雅彦先生（集客見込み200名）、川崎医療福祉大の小田桐早苗先生（集客見込み80名）を予定。
- ③ 【「ひとりじゃないよ」交流会】としてハンドブック作成過程で関わってもらった各部署と連携した勉強会を開催したり、調理活動やクラフト製作等を媒介として保護者同士の交流を図り支援の輪を広げる機会とする等の、保護者支援活動を複数回開催する。
- ④ ハンドブックを読んできた人から依頼があれば、出向いてハンドブックをテーマとした講演活動等を行うこと等によって更にハンドブックについての周知を図り、ひいては障がい児の保護者支援の必要性を社会に向けて発信する機会とする。
- ⑤ 新聞・テレビ・インターネットの活用を促進してハンドブックの周知を更に図る。
- ⑥ 年度の上半期は営業・販売活動に特に注力し、並行して第2号作成のためのアンケート収集活動も行い、10月以降は第2号発行のための内容の検討を始め、2月からは第2号の作成作業に入る予定とする。

【年間スケジュール】 ★…講演会 ☆…交流会

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	☆	☆	☆	★	☆	☆	☆	☆	☆	★	☆	
				☆					☆			
販売活動						2号編集会議			2号作成作業			

団体の能力の活用

私たちの団体の強みは「当事者性」。自分たちの体験に基づいた実感により、同じ立場の若い保護者たちの気持ちに寄り添うことができる。冊子の作成と並行して様々な場所で保護者支援活動を行っており、そこで得た経験もまた冊子の作成に役立てることができている。私たちは冊子の作成を行うことにより、単なる保護者支援活動にとどまらず、当事者としての立場から社会へ向けた発信を行い、子どもに障がいがあっても無くて安心して子育てができる街を実現することに寄与することが出来得ると考える。

前年度事業と比較し、拡大・縮小した内容

冊子の定価は当初計画では300円としていたが採算を考慮して500円に変更した。

印刷部数についても、初年度は500部だったが、26年度については1000部増刷し、更に多くの人にハンドブックを手にとってもらえるよう、販売活動に力を入れる予定。

※自主事業コースでは提出の必要はありません。

行政との協働

協働する主部署名(倉敷市総合療育相談センター「ゆめぱる」)

協働するその他の部署名 (倉敷市教育委員会指導課特別支援教育推進室)

協働する主部署の同意 (有り ・ 無し)

協働する部署との会議について※概ねで結構です

10月 17日 (内容: 25年度中間時点での事業遂行状況について)

11月 13日 (内容: ハンドブック販売方法について)

11月 22日 (内容: 26年度の事業内容及び予算について)

協働する部署の役割

- 他部署(保健所、保育所・幼稚園、学校、民間の福祉事業所等)との連絡
(記事依頼や情報提供を求める)
- 専門の立場からの知見の提供など冊子作成段階での協力
- 冊子の宣伝

他の市民活動団体との協働

- 協働する市民団体(予定) …倉敷市障害児学級親の会、
倉敷支援学校 PTA、早島支援学校 PTA
- 求める役割…会員に対しアンケート調査を行うことによって、障がい児の保護者が何を必要としているかのニーズ把握や、障がい児の子育てに役立つ情報の提供等に協力してもらう。

予算書

(収入の部)

(単位：円)

項 目	金 額	内 容
冊子代金	500,000	1,000 冊×500 円
寄付	5,700	
「ひとりじゃないよ」 交流会参加費	16,800	600 円×7 名×4 回
市補助金	500,000	
合 計	1,022,500	

(支出の部)

(単位：円)

区 分	項 目	金 額	内 容
経費① (対象経費)	印刷製本費	397,000	・冊子 1,000 冊製本代 265,000 円 ・リーフレット代 55,000 円 (5 千枚) 他
	報償費	229,000	・講演会講師謝礼金 152,000 円(2 名) ・「ひとりじゃないよ」交流会ゲスト謝金 他
	旅 費	50,000	・鳥取大学井上雅彦旅費、宿泊費
	消耗品費	102,700	・「ひとりじゃないよ」交流会材料費 40,000 円 ・チラシ印刷代 18,700 円 他
	交通費	32,000	・「ひとりじゃないよ」販売イベントガソリン代
	通信運搬費	114,600	・冊子送料 105,000 円 (150 円×700 冊) ・冊子梱包代 5,600 円 (8 円×700 冊) 他
	宣伝活動費	13,000	・のぼりセット 13,000 円 (6,500 円×2 セット)
	使用料, 賃借料	10,000	・販売イベント参加費 10,000 円 (5,000 円×2 回)
	講師弁当代	2,200	・お弁当、お茶 1,100 円×2 名
		小計 ①	950,500
経費② (対象外経費)	報償費・人件費		
	食糧費	72,000	・「ひとりじゃないよ」交流会お茶代 12,000 円 (1,000 円×12 回) 他
	その他		
	小計 ②	72,000	
合 計		1,022,500	

(記入上の注意)

- ※ 実施可能な経費、内容に見合う経費で計画してください。過大な経費は避けてください。
- ※ 内容欄には、単価・数量等の内訳を記入してください。(別紙添付も可)
- ※ 経費①は補助対象経費です。経費②は対象外経費です。
- ※ 事業実施のために直接必要な経費だけ計上してください。通常の団体運営経費は対象となりません。
- ※ **金額欄は切り上げて千円単位**で記入してください。

平成26年度 予算案別紙

収入の部)	冊子代金	500,000	500円 × 1000冊
	寄付	5,700	
	「ひとりじゃないよ」交流会 参加費	16,800	600円 × 7名 × 4回
	市補助金	500,000	
	合計	1,022,500	

支出の部)	報償費	229,000	・鳥取大学井上雅彦先生謝金 100000円 ・川崎医療福祉大学小田桐早苗先生謝金 52000円 ・「ひとりじゃないよ」交流会ゲスト謝金77000円 (1人5500円 × 2名 × 4回 + 1人5500円 × 1名 × 6回)
	旅費宿泊費	50,000	鳥取大学井上雅彦先生旅費宿泊費
	消耗品費	102,700	・「ひとりじゃないよ」交流会材料費40000円(10000円 × 4回) ・「ひとりじゃないよ」交流会チラシ印刷代18700円 (1500枚 × 1円 × 11回 + 2200円) ・コピー用紙A4サイズ10500円(300円 × 35冊) ・インク代28000円(7000円 × 4個) ・付箋代1000円(200円 × 5冊) ・アンケート用コピー用紙A3サイズ4500円(900円 × 5冊)
	印刷製本代	397,000	・冊子1000冊製本代265000円 ・リーフレット代55000円(5千枚) ・振り込み用紙代5000円(5千枚) ・講演会チラシ印刷72000円(5000枚 × 1回)
	通信費	114,600	・冊子送料105000円(150円 × 700冊) ・チラシやアンケート等の郵送料4000円 ・冊子梱包費5600円(8円 × 700冊)
	宣伝活動費	13,000	・のぼりセット13000円(6500円 × 2セット)
	使用料・賃借料	10,000	・販売イベント参加費10000円(5000円 × 2回)
	講師弁当代	2,200	・お弁当・お茶1100円 × 2名
	交通費	32,000	・販売イベントガソリン代32000円(400円 × 4名 × 20回)
	小計①	950,500	
	食糧費	72,000	・「ひとりじゃないよ」交流会お茶代12000円(1000円 × 12回) ・会議時飲食代60000円(200円 × 5名 × 60回)
	小計②	72,000	
	合計	1,022,500	